

ひかり

一般社団法人

光陽福祉会

発行日 平成 29年 8月 第85号

子どもの5年先10年先は父母も5・10歳年を重ねること。

会長 菊池 利哉

今年もやってきた夏休み。子どもたちにとって良い思い出の機会となるようにしたい。毎年この時期にそう思う。しかし、一方で、父親として子どもの夏休みを苦痛にさえ思える歳になった。

後厄を迎え今年42歳。最近、体力・気力がめっきり落ちた。先日プラズマテレビを頭突きで破壊し、体力も気力もめっきり付いた長男との格闘の日々に疲れが滲むようになった。

10年前は長男6歳、私32歳。ショッピングモールを2時間、抱っこだけで歩いたこともあった。お風呂も膝の上にチョコンと座らせ体を洗うのも頭を洗うのも楽だった。もちろん2階の寝室に運ぶのは そんなに大変なことではなかった。おむつを替えるのも、一緒に寝るのも・・・

5年前は長男11歳、私37歳。ショッピングモールの抱っこは車いすへ、お風呂はシャワーチェアに座らせて、それでも2階へは抱きかかえて運んでいた。この頃から大変だなーと思い始めた。

そして現在、車いすを押していてもタイヤを持って止める。お風呂に入ればフラフラ。2階までは階段昇降機を設置。寝てれば押しつぶされる。叩かれればあざとなり噛みつかれれば出血。着替え一つも汗だく。

さて、これから先の 5年・10年をどう考えるか？ 子どもの5年先10年先の姿に自分の老いは考えてこなかった。今のままの体力で、そして今のままの気力で・・・なんてことは、不可能なんだと改めて痛感した。

親として16年、やっぱり思う子どもの時の課題は年齢と共に大きな障害になる。例えば自分で出来ない洗体。子どものころはチョコンと座らせ洗えばいい。でもある一定の年齢が来ると介護だ。そしてその介護は介護者の体力に応じて介護力となる。年齢も若く、体力・気力があれば介護力は高いからいい。しかし、介護力は悲しいかな低下する。そうなれば子どもの体力が落ちる40代まで頑張るしかない。

長男が6歳の夏休みに出来る様に練習したスプーンを使うこと。何度も投げたスプーンを拾い根気よくやってきた。結果、食の介護がない今がある。

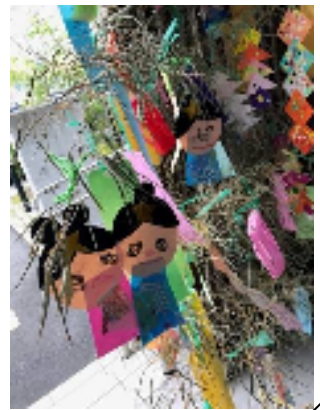
だから思う。「出来ないことを出来る様に」というのは本当に大切だ。今年の夏休みも出来ないに挑戦し続けたい。

きっずサポートはぐくみ

たなばたさま

増田 彩加

7月7日 今年もはぐくみちゃんできつまつりを行いました。七夕さまに向けて制作で作ったおりひめさまとひこぼしさま、短冊には一人ずつ絵を描いて笹の葉に飾りつけました。当日は調理実習を行いきゅうりやにんじん、チーズをお星さまの型抜きでくりぬいて、七夕ちらし寿司にトッピング。型抜き作業はみんな夢中になって(つまみ食いにも夢中!)楽しそうに増産してくれましたよ。みんなで♪たなばたさまの歌を歌い、自分たちで作ったちらし寿司を美味しくいただきました。楽しい七夕会になりました。



サポートセンターつぼみ

おしえて! たからもの

吉田 奈央

皆さんの“たからもの”は何ですか? 子供の頃の“たからもの”は何でしたか? 小学部の皆が応募した『こども絵画コンクール』。今年のテーマは“おしえて! たからもの”。大好きなもの・描きたいものを嬉しそうにいきいきと描く子もいれば、「先生、たからものって何?」と悩み続ける子も。たからものを持つてる子って羨ましいよね! きっとたくさんある大切なたからものの中から改めて、ボクのたからものって何だろう…。と、純粹に悩む姿が、なんだか愛しかったです。

私は小学1年生の頃、夏休みの制作として“わたしのたからもの えにつき”を作りました。毎日母が机の隣に座って文章を考え、私は時に泣きながらも(笑)必死に描き続けました。母の頑張りにより見事金賞を受賞!(えへん)大きくなってからもよく家族で見返していました。残念な事に今は無くしてしまいもう読み返す事はできませんが、“たからもの”と聞いて思い出すのは今は無きあの絵日記です。

今は気が付かなくても、大きくなってから宝物になるものもきっとあります。それは目に見えないものであったり形のないものかもしれません。子どもたちにとってはそうじゃなくても、ご家族の方の宝物になっているものもあるかもしれません。

自慢の“たからもの”教えてね! 素敵な“たからもの”一緒に探していきましょう♪



第2光陽



未来を見据えて

小柳 隆志

夏休みも中頃、みなさんいかがお過ごしでしょうか。暑い日が続きますが、熱中症等には気をつけていきたいですね。

さて、夏休み前のある日の事です。七夕に向けて短冊の願い事を書くことになりました。短冊には「家族と楽しく暮らしたい」や「友達ともっと仲良くなりたい」などどれも叶って欲しい素晴らしい願い事です。その中でも特に気になった願い事がありました。「〇〇学校合格」「高校受験が上手くいきますように」中学3年生の子が未来を見据えて書いた願いです。それぞれ目標とする学校があり、高校生になったらやってみたい事や頑張りたい事がある。そういった想いも含まれた願いのように思いました。そして来年には新たな場所へ羽ばたいていく子どもたちにエールを送りたい気持ちになりました。

高校生になることは、さらに社会人へ近づいていくことです。実習等これまで以上に大変な事もあると思います。それでも未来を見据え頑張ろうとしている子どもたち、その力に少しでもなれるようこれからも関わっていきたいと思っています。



第3光陽



「楽しむ」を大切に

安田真夕

暑い日が続いていますね。体調に気をつけて、元気に過ごしたいですね。

第3光陽ではADL、5S訓練、就労体験に毎日励んでいます。

日々の頑張りの中で、子どもたちが楽しみにしている活動のなかにパン作りがあります。月に1度のこの活動は、「先生!今日はどんなパン作るの?」と送迎時のバスの中で聞かれるほど、楽しみにしています。

来所して準備が出来たらいよいよパン作りスタートです。生地のかかふか・もちもちした感触を楽しみながら生地をのばします。時にはスケッパーという生地を切る道具を使い、切つてのばすこともあります。具材を包む時は、子どもたちがそれぞれ工夫しながら、はみ出したり、生地が開かないようにしています。

パンが焼けるまでの待ち時間にも、「上手にできたかな」「早く食べたい」といった待ちきれない会話が聞かれます。焼きあがったパンが到着すると、部屋中にいい匂いが広がり、みんな嬉しそうで、笑顔が多くみられます。

次の日には、「おいしかった」「家族と食べた。喜んでもらえた。」と嬉しそうに話してくれます。

こうした楽しい活動の時間も大切にして、これからも子どもたちと一緒に頑張りたいと思います。

